

産業パラダイムの大転換

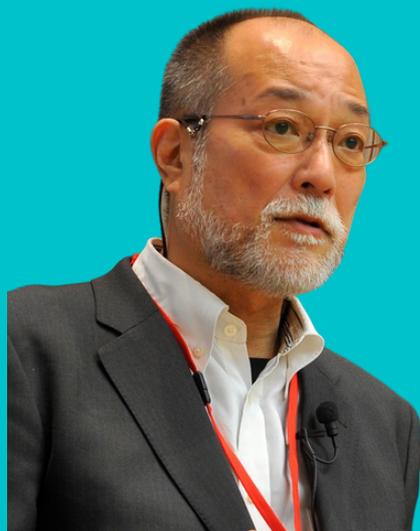
～次世代の知財・標準を巡る背景を学ぶ～

資源循環経済

サーキュラーエコノミー時代の到来

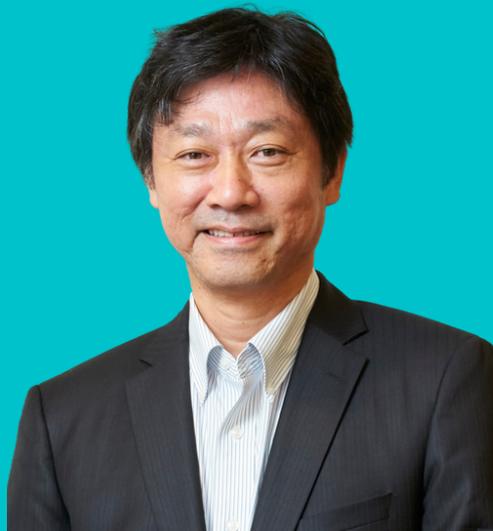
2022年8月23日開講！（全5回）

第1回 8/23, 第2回 8/30, 第3回 9/6, 第4回 9/13, 第5回 9/20
いずれも火曜日・13:30～17:00 @ Zoomウェビナー
受講料(税込) 全5回一括 ¥33,000, 単回参加 ¥6,600



[ホスト講師]
妹尾 堅一郎 氏
NPO産学連携推進機構
理事長

&



[ゲスト講師]
喜多川 和典 氏
公益財団法人 日本生産性本部
エコ・マネジメント・センター長

お申込み(全5回一括)は

<https://eventregist.com/e/TsT1Hwyso0bk>

左下のQRコード、または上記URLから事前決済（各種クレジットカード、PayPal）でお申込みください。

※誠に恐縮ですが、特別の御事情がない限り請求書払いにはご対応できません。

EventRegist社発行の“領収書”での御精算へのご協力、何卒ご了承ください。



最新情報・詳細は、<https://www.nposangaku.org> をご覧ください。
【お問合せ】NPO産学連携推進機構 AICOS事務局（担当：伊澤・宮本・田中）
email : aicos-secretary@nposangaku.org

産業パラダイムの大転換

～次世代の知財・標準を巡る背景を学ぶ～

資源循環経済

サーキュラーエコノミー時代の到来



プログラム概要

「X（トランスフォーメーション：大転換）」が産業上の最重要ワードになってきました。次世代の産業生態系に向けた大転換が加速度的に進展しているからです。

- ・SX「サステナブル・トランスフォーメーション（持続可能な社会への大転換）」
- ・EX「エコノミー・トランスフォーメーション（線形経済から循環経済への大転換）」
- ・DX「デジタル・トランスフォーメーション（アナログ基盤からデジタル基盤への大転換）」

これらのXは相互に連動します。また、新型コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻による資源争奪戦で停滞するのではなく、むしろそれらを打ち破る原動力として加速しつつあります。当然、イノベーションにはさらに拍車がかかるでしょう。

なかでもEXの中核をなすのが「サーキュラーエコノミー（資源循環経済）」です。

この「モノ循環」化は、温暖化対策等の「エネ循環」と共に、極めて重要な産業テーマです。

- ・再生資源活用によるリユースとリサイクルが主役になる時代とはどういうことか。
- ・欧米や中国はどのような政策を打ち、産業や企業はどのような対応活動を行っているのか。対する日本の状況はどのようなものなのか。
- ・これらによって加速度的に連鎖するビジネスイノベーションとそれを支える知財・標準マネジメントの新しいあり方はどのようにしていくのか。

（従来「バージン材による新品モノづくり」を前提にしていた知財や標準のマネジメントは大きく変わるはずです）

これらについて、日本のサーキュラーエコノミー調査研究と指導の第一人者である、喜多川先生（日本生産性本部エコ・マネジメントセンター長、上智大学大学院地球環境科学研究科 非常勤講師、新エネルギー・産業技術総合開発機構技術委員）を講師にお招きし、資源循環経済の概要を学び、具体的影響と対策を考えていきます。

☆ こんな方に是非お勧めの講座です ☆

- ・ 経営役員らから「サステナブル貢献を考えると、対応しろ」と言われていて、次の一手を考えたい方。
- ・ ESG投資家に向けて、我が社の持続可能な社会への貢献を謳いたいが、資源循環経済社会に関する基礎知識や情報に乏しく、企画に苦慮している方。
- ・ 次世代の中・長期戦略を企画してはいるものの、どうしてもSDGsのマークを切貼したように見えてしまい、自分自身しっくりきていない方。
- ・ サーキュラーエコノミーとは「廃棄物対策」だと思っていたら、ロシアのウクライナ侵攻で「資源争奪戦」も関係することに気づき、不安な方。
- ・ CO2排出規制や気候温暖化対策に向けた「エネ循環」と、この「モノ循環」がどう重なり、どう違うのかを知りたい方、等々。

☆ 弁理士・知財関係者の皆様へ ☆

- ・ 従来の知財・標準、それらの制度やマネジメントも、「バージン材による新品ものづくり」が前提でした。
- ・ 今後は、リサイクルを経た「再生材料によるモノづくり」もあれば、「モノつくり治し・直し・替え」等もあり、リファーマビリティ技術やリマニュファクチャリング技術も進展するでしょう。さらに「モノくずし・はがし・はずし・ほぐし・ばらし・つぶし」等も進展していきます。知財権や標準はどうなるのか？
- ・ 例えば、リユース品市場が活性化すると「権利消尽」をめぐる議論等は再燃するかもしれません。
- ・ これらの問題・課題を考える基盤となる世界的な背景をしっかりと学んでいただけるように、議論を進めていく予定です。

最新情報・詳細は、<https://www.nposangaku.org> をご覧ください。

【お問合せ】NPO産学連携推進機構 AICOS事務局（担当：伊澤・宮本・田中）

email : aicos-secretary@nposangaku.org

産業パラダイムの大転換

～次世代の知財・標準を巡る背景を学ぶ～

資源循環経済

サーキュラーエコノミー時代の到来



■プログラム（各回詳細）

※状況により、予告なく実施内容を一部変更する場合がございます。

【Day1】8/23火曜

サーキュラーエコノミーに関わる
歴史的レビュー

- 日欧の廃棄物制度の系譜
- 日欧廃棄物制度の比較
- 廃棄物制度のちがいが招いた日欧の一大分岐点
- 拡大生産者責任から統合型製品政策へ
- 統合型製品政策からサーキュラーエコノミーへ

【Day2】8/30火曜

廃棄物管理と
サーキュラーエコノミーの関係

- 欧州における廃棄物管理ビジネス発展の歴史
- 処分からリサイクルへの転換プロセス
- 中国廃棄物産業の台頭と欧州への進出
- グローバルビジネスとしての廃棄物管理
- 素材産業化する欧州の廃棄物ビジネス
- 廃棄物産業から総合インフラサービスへと転換

【Day3】09/06火曜

サーキュラーエコノミー型ビジネスモデル
への移行

- EUにおけるふたつのアクションプラン
- CEへの移行に関わる原則とポイント
- CEへの移行に関わるケーススタディ
- 社会デザインを変革する20以上の新しい法令の束
- 新しい投資トレンドをドライブする新財務制度
- 新時代の競技大会会場が建設中

【Day4】09/13火曜

サーキュラーエコノミーに関わる
ソフトウェア・規格化の動き

- ISO/TC323の動向
- ドイツのCEロードマップとCEガイドの作成
- CE×DXの推進
- CE×DXに駆り立てるアメとムチ
- 新エコデザイン指令／規則案が示す未来型ビジネス

【Day5】09/20火曜

サーキュラーエコノミーに関わる今後の展望

- 全ライフサイクル管理型CEの幕開け
(バッテリー規則の始動)
- デジタルプロダクトパスポート政策が目指すもの
- 欧州との比較から：
CEに向けた日本の政策力・技術力・競争力の比較
- 米国に展開するCE型ビジネス
- CE実施のための基本的な取組み事項の最終確認

<各回の構成>

- 喜多川氏の御講演、妹尾理事長の補足解説
 - 喜多川氏と妹尾理事長のトークセッション
 - 適宜、質疑応答
- ※Q&A、チャットも使用いたします。

■留意事項

本研修を、日本弁理士会継続研修・単位認定目的で
御受講されたい弁理士の皆様

- 必ず全5回一括でお申込みください。
別途募集する単回参加でお申込み・ご出席いただいても、単位として認定できません。
- 取得単位：15単位（予定）
なお、この研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を受けています。この研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として15単位が認められます。（認定日：2022年7月27日）
- 15分以上の遅刻をした場合には、受講したものと認められません。
- インターネット接続・電子端末に起因する不具合等、自己の行為に起因しない理由であっても、受講したものと認められません。時間に余裕をもってオンライン会場へ接続してください。
- また中座・早退の場合については、時間にかかわらず、受講したものと認められません。
中座・早退の判断として、ZOOMウェビナーの投票機能を使って出欠確認をいたします。
- 全5回の出席を確認できた方のみへ、後日修了書を発行いたします。

最新情報・詳細は、<https://www.nposangaku.org> をご覧ください。

【お問合せ】NPO産学連携推進機構 AICOS事務局（担当：伊澤・宮本・田中）

email : aicos-secretary@nposangaku.org